

福島県PTA連合会会報
第98号_H27.12.10

福島県PTA連合会



PTA Fukushima 第98号

県連P活動スローガン 子と親とが 共に育つ PTA活動を

編集：調査広報委員会 印刷：泉印刷所

第63回福島県PTA研究大会二本松大会報告 ～ほんとの空とともに よみがえる大地 子どもたちに明るい未来を～

第六十三回福島県PTA研究大会二本松大会が、十月十一日に開催されました。実行委員長として来賓の皆様、スタッフの皆様ならびに出席されたPTA会員の皆様の力に支えられて研究大会が成功しましたことを御礼申し上げます。私にとって今大会でよかったと思うことは、PTA会員の皆様が



二本松大会を終えて
大会実行委員長 出川 正人

非常に協力的であったことだと思っています。特にスタッフとして協力していただいた安達郡連Pの皆様は、会場の設営から全体会・分科会の運営などすべてにおいて役割をスムーズにこなしていただきました。本当に感謝です。講師の選定も好評で、出席会員を魅了した内容だったと思います。全部の講演の状況を見に行きまし

たが、講師の話を真剣に聞いている会員の姿が印象的でした。私の所感ですが、今大会は安達郡にとって有意義な大会だったと思っております。各単Pのつながりが普段少ない中、このようなきっかけでいろいろな情報交換もできました。またレセプションでは県内各単Pの代表の方と交流できたことは、安達郡連Pにとって良い方向に向かうと確信しております。最後に終了後、会う人々にお礼と握手をしました。皆様笑顔でした。よかったよかった！ありがとうございました。

●実行委員あいさつ



全体会 (大会宣言)



全体会 (県PTA連合会旗引き渡し)



記念講演
安齋 隆氏
(セブン銀行 代表取締役社長)
『子供は親と先生を映す鏡
—愚直に誠実に—』



アトラクション～和雅美太鼓～

もくじ

第63回福島県PTA研究大会二本松大会報告	
実行委員長あいさつ	P 1
第1分科会・第2分科会	P 2
第3分科会・第4分科会	P 3
大会レポート	P 4
第21回母親代表懇談会	P 5
事務局からのお知らせ	P 6

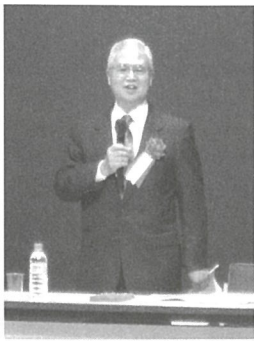
大会報告

～ほんとの空とともに よみがえる大地 子どもたちに明るい未来を～

第2分科会 家庭教育・健康安全

〈テーマ〉

学校でのさまざまな取り組みを理解し、家庭で子どもたちと過ごす時間に生かし、充実した生活を支えていこう。



講師 氏川 守義 氏

分科会担当

本宮町立本宮第一中学校

PTA会長 遠藤 隆



● 演題及び講師
「良き社会人を目指しての子育てを」
株式会社クラロン社長
氏川 守義 氏

● 講義内容
子供たちが豊かな人間性を持つ大人へと成長するためには、マンツーマン教育である家庭教育が最も重要である。特に幼少期におけるお話の読み聞かせや成長してからの読書習慣は大切である。また、人との交わりを通し、相手に対する思いやりや喜び、悲しみ、苦しみに共感出来る能力が培われる。また子供にはたっぷりの愛情を注ぐ一方、物事の善悪をしっかり教え込むことも重要である。叱るという行為に対しても、ルールやテクニクが必要であり、叱ると同時に褒めるこ

ともセットにし、思いやりとして言い聞かせていることを子供に理解させるような叱り方が必要である。

子供たちが普通の社会人として立派にやって行ける人間に育てるためには、まず家庭では平和が第一、家族間の不和は子供たちにとって大きなストレスになり、心の発育を妨げる。子供の悩みを理解し、気軽に親に相談出来る関係を築くことも大切である。そして、子供と真正面に向き合い、本気で心配してあげて、具体的な対策を講じる。そのため、家庭の中での会話（家団欒）の時間が求められる。やさしい会話で家族のつながりをつくる。一方、親側も、仕事、職場での不満を家庭に持ち込まない。子供の教育は、親にとって自身の修業の場であ

り、過保護、過干渉になり過ぎず、成長過程として認め、少し距離をおいて見守ることも重要である。

『遊びをせんと生まれけむ 戯れせんと生まれけむ
遊ぶ子供の声聞けば わが身さえこそ揺るがるれ』 (梁塵秘抄)

健全な遊びを通じて健全な成長がある。

仲間との遊びを通じて、社会性が育ち、創意工夫する力が芽生え、体力が向上する。自分達のルールを作り、謙譲、寛容、博愛、忍耐などの美徳が涵養される。

『銀も金も玉も何せむに 勝れる宝 子にしかめやも』 (万葉集 山上憶良)

第1分科会 組織運営・活動研修

〈テーマ〉

魅力と活力のある活動をつくりあげるため、広い視野に立って意見を交わし、様々な経験を共有し、魅力あるPTAを築こう。



講師 杉本 肇 氏

分科会担当

二松市立東和中学校

PTA会長 齋藤 慶 司



● 演題及び講師
「起きたことに学び、ここに生きる希望をつくる」
水俣病資料館 語り部
杉本 肇 氏

● 講演内容
昭和三十六年、水俣の漁村、シラス（いりこ）漁の網元の家に生まれる。生まれた時から祖父の深い愛情に包まれながら、五人兄弟の長男として大変幸せな生活を送った。

昭和四十四年、小学二年生のときに、祖父が体が寒くて震えが止まらないうと漁から帰ってきた。入院して一週間後に他界。この時祖母に「じいちゃん水俣病で死んだ」と伝えられ、大きな衝撃を受けた。

祖母は言語障害、視野狭窄、手足の感覚がないなどの障害があった。ある時、包丁が自分の足に刺さって血まみれになる事件が起きた。この時に初めて「水俣病」の恐ろしさを実感した。その後、母が水俣病患者に認定された。それは、治る病気ではない水俣病の患者になったこと、一生病を背負っていかねばならないことを意味した。しかし、仕事をしながら明るく振舞って生きる母には覚悟ができていた。水俣病とともに生きる希望があった。子供のために頑張り、生きることをあきらめなかつた母の姿。まさに魂を感じた。

出身地を言えないことはとても悲しい。だからこそ、起きたことを学ばなければならぬ。現在、水俣の子どもたちが水俣病の勉強をすることによる、この町に生まれて育つてよかった、自分が水俣出身だと胸を張って言える子が増えた。子どもたちは今、未来を見据えて今何をすべきかを考えることが大切だと学んでいる。

二十年前に発足した語り部の活動。語り部の活動を続け、差別や偏見が確実に減ってきた。全国からの応援をいただくことで、水俣に生きる希望がふくらみ、今では現在の水俣を見てほしいと全国に発信している。

自分の体験が福島復興の力になり、子を持つ親として福島のみなさんと関わって絆を深めたい、そのために福島に何度でも来たいと考えている。

第63回福島県PTA研究大会二本松

第4分科会

特別支援教育

〈テーマ〉

特別な支援を必要とする児童・生徒への理解を深め、共に成長できる教育環境を目指し行動しよう。

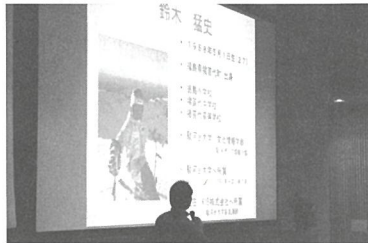
分科会担当

本宮市立白沢中学校

PTA会長 金澤利美



講師 鈴木 猛史氏



第3分科会

健全育成

〈テーマ〉

子どもたちの健全育成を図るために、親として、地域の大人として行動できることを学び、実践していこう。

分科会担当

二本松市立小浜中学校

PTA会長 大内伸一



講師 成井 香苗氏



● 演題及び講師

「子どものSOSにこたえる子育て」

白河・郡山メンタルサポート

代表カウンセラー

成井 香苗氏

● 講演内容

子どもから発信されるSOSにこたえる子育てとは、どうあるべきなのかを考えると、「問題」は子どもが何を「助けて」と言っているのか、見えている問題行動を起こさせているのは何なのかを理解することが重要である。子どもたちのSOSは、震災後のストレス障害、いじめ、不登校、やせ願望等、様々な要因から行動や症状に表れている。子どものSOSに対して、どのように対応し、子どもたちの自立を支えていけばよいのかを考える

● 演題及び講師

「チャレンジは前進の一步」

(株)KYB パーソナルピク金メダリスト

鈴木 猛史氏

● 講演内容

小学二年時に交通事故により両足を切断し、車いすの生活になった。自分が交通ルールを守らなかったのが原因で、両親の前で「足がない」と周囲から偏見の目で見られることが申し訳なく辛かった。両親は特別扱いせず育てたいと願い、設備が整っていないそれまで通学していた学校へ復学させた。また、将来いろいろな選択肢があるようにと、様々なことに取り組みさせてくれた。友達も

● 協議より

子どもは、SOSを言葉で表せないことがある。子どもたちは、言葉で言えないからこそ、表情や行動で表すのである。いつもと違う表情や行動を見逃さず捉え、子どもの思いを理解してあげることが重要である。

現在の子育てにおいて、スポーツ少年団への依存傾向が強いケースもある。低学年での過度な活動はやるべきでないと考え、マイナスマ面としては、親子で共に過ごす(遊ぶ)ことが大切な時期でもあり、試合の成果による愛情表現になりがちになってしまうことが挙げられる。スマ面としては、様々な人(親やコーチ等)と出会えることで、問題解決に向けて修

正のチャンスがあるということが言える。

子どもたちのSOSに、私たち大人が真摯に向き合い、子どもの表情や行動の変化をしっかりと捉え、「その子が、今求めていることに応えてやる。」ことが大切である。そして、大人が自分のことを本当に理解してくれている、自分は愛されていると実感できたときに基本的な信頼感(愛着)の再構築が可能となる。それによって子どもは安定し、問題行動が解消され、自立へと成長していく。一番大きな再構築に向けた修正のチャンスは、思春期である。また、人間関係の基盤は、親子関係であるが、親がひとりでは達さないで、教師、PTA、地域の人々等、チームとして、みんなでサポートしていくことが重要である。

ンジ精神を持ち、前進の第一歩を踏み出してほしい。



大会レポート

日P研究大会札幌大会 8/21(金)・22(土)

県PTA連合会副会長 諏訪 秀一



第六十三回日本PTA全国研究大会が八月二十一日(金)・二十二日(土)、北海道札幌市において盛大に開催されました。全国各地より約八千名、福島県からは約三十名の会員が参加し、一日目は分科会、二日目は全体会においてPTA活動に関する見識を深めました。一日目、私の参加した特別第二分科会では、「スマホ時代の大人が知っておきたいこと」をテーマに兵庫県立大学の竹内和雄氏から基調講演があり、その後パネルディスカッションが

行われました。インターネットの普及によつて子供達に生じている問題について、私達大人がどう対応すべきなのか多くの提言をいただきました。一日目は開会行事に先立ち、地元よきこチーム「平岸天神Jr・平岸天神」によるよきこいソーランが披露され、見事な踊りとその迫力に圧倒されました。全体会では、脚本家の倉本聰氏より「あなたは子どもたちの想像力を育てていますか」というテーマで記念講演があり、特に十年続けておられる「富良野自然塾」の取り組みからは、改めて現代社会の問題性について考えさせられました。スマホなどの通信機器をはじめ、便利で快適な「もの」に囲まれた生活の中で、私達大人が本当に大切なこと、本当の豊かさを見失ってはいないかと叱られたような気がしました。一日間を通して多くの課題をいただくことが出来た貴重な大会でした。ありがとうございました。

東北P亘理・山元大会 10/3(土)・4(日)

県PTA連合会副会長 梅津 司



第四十七回東北ブロック研究大会は十月三日、四日に宮城県亘理町と山元町、名取市において開催されました。分科会には本県から三名がパネリストとして参加し、地域での活動や福島ならではの課題について各々の持ち味を活かして発言がなされました。伝えたい思いや現状をどうするか、皆さん大変に苦労され

たと思いますが、堂々とした事例発表でした。二日目の全体会での講演では、元プロ野球選手の金本知憲氏から諦めずベストを尽くすことで結果を残してきた体験をお話しいただきました。ちょうど阪神への監督就任が取り沙汰されていた時期で、質疑の際に本県の参加者から「去就を問われ「タイムングがあえば」と発言、翌日のスポーツ新聞で大きく取り上げられました。当大会は東日本大震災の津波の被災地では初めての開催であり、「蘇る大地」のテーマのもと開催者の思いもひとしおであったようです。難難を共にした本県PTAとして、大会の成功を嬉しく思うところです。

平成27年度 日P・東北P・文科省関係 福島県PTA連合会会長表彰者 等一覧

1 日本PTA全国協議会長表彰

◇団体(2団体)

福島市立福島第一中学校父母と教師の会
いわき市立小浜第二小学校PTA

◇個人(2名)

山岸 波 (前副会長)
古内 利勝 (前事務局長)

2 東北PTA連絡協議会長表彰

◇団体(3団体)

伊達市立山舟生小学校PTA
三春町立中郷小学校父母と教師の会
相馬市立飯豊小学校・幼稚園PTA

◇個人(9名)

君島 勇吉 (前副会長)
会田 智康 (前副会長)
大楽 治美 (前母親代表理事)
藤野 圭史 (前理事、監事)
國井 文郎 (前理事、総務委員長)
瀧田 勉 (前理事)
齋藤 正明 (前理事、安全互助委員長)
佐藤美智子 (前母親代表理事、東北P母親委員)
佐藤 秀雄 (前教師代表理事)

3 文部科学大臣表彰「優良PTA」表彰

(3団体)

- 福島市立蓬萊中学校父母と教師の会
- 白河市立白河第二中学校PTA
- 新地町立福田小学校父母と教師の会

4 福島県PTA連合会会長表彰

感謝状

山岸 波 (前副会長) 他35名

団体表彰

二本松市立岳下小学校PTA 他22団体

個人表彰

高橋英樹 (福島) 他73名

県教育長との懇談・要望

- 1 青少年の健全育成のための施策について
 - (1) 震災、原発事故のため、多くの制約がある中でも、地域の青少年健全育成活動の振興策が、これまで以上に促進されるよう市町村に指導していただきたい。
- 2 児童生徒の健康と安全を守るための施策について
 - (1) 子どもたちの生活圏すべての除染中学校庭内に埋設した汚染土の除去について積極的に進めていただきたい。
 - (2) 放射線量の子どもの影響をより確実に把握する手立てを講じるとともに、子どもの健康診断の実施とその継続。将来にわたつての追跡調査と、万が一健康被害が発生した際、万全の体制での支援を強くお願いしたい。併せて保護者への正確かつ迅速な情報の提供をお願いしたい。
 - (3) 学校給食用食材の安全確認の強化。徹底を図っていただきたい。万が一にも放射性物質に汚染された食材を子どもたちが口にすることのないように、万全の体制を整えていただきたい。
 - (4) 震災や放射能汚染の不安から子どもたちを守るため、スクールカウンセラーの継続配置と増員をお願いしたい。
 - (5) 不登校やいじめなど、心に不安や悩みを抱える子どもたちを支援するため、スクールソーシャルワーカーの配置と増員をお願いしたい。
 - (6) 防災マニュアル等の整備と指導、常日頃の訓練の強化を指導していただきたい。
- 3 PTA活動の育成強化のための施策について
 - (1) 保護者負担の軽減について
 - (2) 学校の施設設備の整備・充実について
 - (3) 学校教育の充実について
 - (4) 中学校生徒の進路について



ちょっと立ち止まって 子育てについて 考えてみませんか？

第21回母親代表懇談会

講話
より

「子どもが育つところ ～家庭教育の役割を考える～」

講師 社会福祉法人青葉学園園長 神 戸 信 行 氏

子育てとは何か

「生きていて良かった」と子どもが思えるようにすること。

1万回の授乳と6000回のおむつ交換で

「生きていて良かった」と言う感情は日々の生活から生まれる。

親のみが、その子の子育て専門家、しかし、専門家だけでも子育てはできない。

地域のおじちゃん、おばちゃんという斜めの関係も子育てには必要。

子育てを支える最も身近な団体がPTA、PTA 連合会の役割は支え合うこと。



～参加者の声（講話の感想）～

- しつけと虐待についてしみじみ考えさせられた。
- 子どもの成長に伴い、様々なことが起きてくるが、ちゃんと向き合っていきたいと思った。
- 兄弟を比較していたことに気付かされた。
- 青葉学園のような施設の存在を初めて知った。
- 言葉の虐待は、やっちゃいけないと分かっていても、つい言葉の端々に出てしまう。改めて考えさせられた。
- 「斜めの関係」の大切さを改めて感じた。実感がある。
- 親同士が話す機会を増やすことを継続していきたい。

～バズセッションの様子～



話し合いの内容は、グループにより様々でしたが、どのグループも、いろいろな地域の方々と話し合える貴重な機会となり、とても充実した時間を過ごしました。

◆各グループの内容より◆

- PTA がいろいろな問題の窓口になる場合は、うわさや陰口に惑わされず、公平な立場で話を聞くことが大切。
- 子どもの問題は親の心の問題でもあるのではないが、話を聞いてあげるだけでも親の心が軽くなるのではないか。
- 虐待については、どの家庭でも大小にかかわらず身近な問題であることを認識。
- 学級の中に他の子に迷惑をかけてしまう子がいる場合、どうするか。親同士が知っていると、言いやすい環境がある。また、親子で謝りに行ったりもできる。親同士のつながりが大切。
- 親・学校・地域それぞれが、見えるところ、見えないところがある。それを共有すること、連携することが重要。



親同士のつながり、学校や地域との連携など子ども達の周りにおとなが、力を合わせて子育てをしていくことの大切さを改めて実感しました。

安全互助会から

常日頃より、福島県PTA安全互助会に対し、ご理解とご協力をいただいておりますこと厚く御礼申し上げます。

すでにご案内の通り、平成二十五年から新コース(Ⅳ)を加え、四コースから選んで加入していただいております。

◎Ⅳコースについて

人身事故など高額な責任を負う事態に至るようなケースに対応するため、学童の賠償責任額を一億円(自己負担額0円)としています。

今年度は、Ⅳコースに県内の約半数の四百九校・園に加入いただきました。他のコースは、賠償事故において、二百万円または百万円が補償の上限となっており、それ以上の賠償請求が求められた場合の不足分は、親権者の負担となります。是非ご検討ください。

◎転出入の報告をその都度 お願いします。

今年度も、児童生徒の転出入の件数が多くなっています。

本制度は、会費を納入いただいた後(五月末日)の転出入については、「福島県PTA安全互助会加入人数の変更届」を本会宛に提出いただくことをお願いしております。

年度末に、本会と引受保険会社とで加入人数等の確認をし、本会が支払う保険金の調整をすることになるので、転出入の人数の確認が必要となるわけ
です。

本制度を維持していくためにも必要なことですので、お手数でも、「変更届」の提出は忘れずにお願いたします。

なお、第三学期(二月)以降の転出入については報告の必要はありません。
※「変更届」の用紙は、「事務取扱概要」の四十二頁にありますので、コピーしてご使用ください。

ふるって応募ください

◇子ども災害事故防止習字・ポスター展

実施要項を各学校に送付しておりますが、今一度ご確認いただき、多数のご応募をお待ちしております。

- ・応募締切 平成28年1月末日
- ・作品送付先 県PTA連合会事務局

◇学校新聞、PTA広報紙コンクール

各学校PTAでは、それぞれ特色ある新聞、広報紙を発行されていることと思っております。ふるって応募くださいますようお願いいたします。

- ・応募締切 平成28年3月末日
- ・送付先
福島民友新聞社事業局
「県小中学校新聞・PTA広報紙コンクール係」

年末年始の事故防止を

「早めから

つけるライトで 消える事故」のスローガンのもと、「年末年始の交通事故防止県民総ぐるみ運動」が実施されます。

●期間

平成二十七年十二月十日から平成二十八年一月七日まで

●運動の基本

高齢者の交通事故防止

●運動の重点

(一) 夕暮れ時や夜間の交通事故防止(特に、反射材用品等の着用の推進)

(二) 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底

(三) 飲酒運転の根絶

編集後記

今年度の「水保との交流事業」は、十二月二十三日から二十六日までの三泊四日で実施されます。県内各郡市P連から推薦された三十九名の中学生と水保市の二十四名の生徒が、「熊本県立あしきた青少年の家」にて寝食を共にし、研修をします。

事前研修会での態度や発表を聞く一人一人が明確な目的意識を持って臨んでいることがうかがえました。水保市の中学生との交流を通し数多くのことを学び、貴重な体験をしてきてほしいと思います。(H・S)

共栄火災

夢を、未来を、
ずっと近くで支えたい。

つながり強化宣言! 共栄火災



サイ吉

人々が気持ちよく毎日を暮らせるよう、安心のチカラでそっと支えるサイ。共栄火災のサイ吉です。